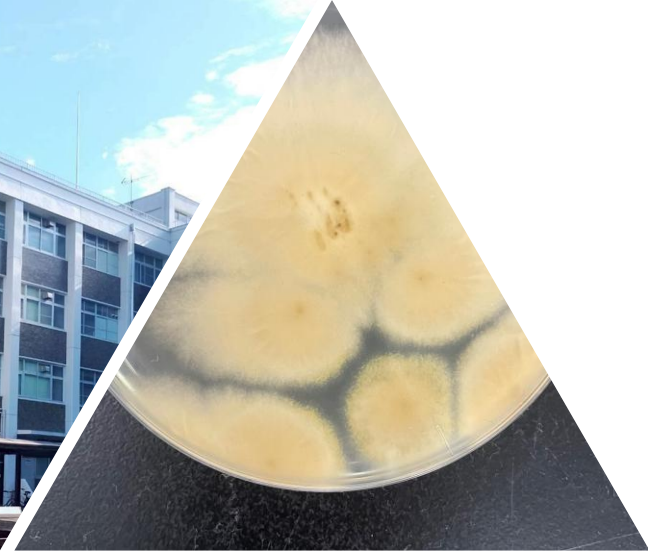




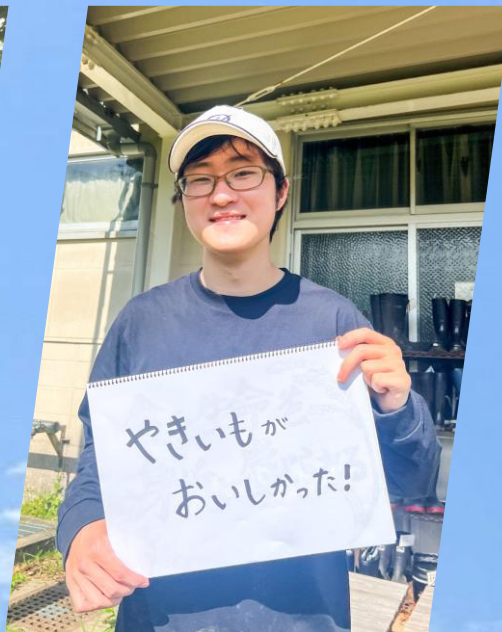
NOAH

the News Of Agricultural Home

『ノア』第21号 山口大学 農学部 2026 summer

この広報誌は農学部学生広報部員が中心となって作成しています。

山口大学農学部 のいいところ



学部長挨拶



山口大学農学部長

荊木 康臣

(いばらき やすおみ)

情報誌「NOAH」第21号の完成に寄せて

今年度も無事、広報誌「NOAH」第21号が完成いたしました。本誌は、学生の視点から山口大学農学部の今をお届けする広報誌です。年1回の発行を重ね、今年で21年目を迎えました。

当初は保護者の皆様へ学生の様子を伝える目的でスタートしましたが、現在は高校生の皆様にも農学部を知っていただくための広報誌へと役割を広げています。

最大の特徴は、企画から編集までの全工程を、農学部広報部の学生が担っている点です。学業の合間を縫って、教員への取材アポ取りから記事執筆、レイアウト考案まで、熱意をもって取り組んでくれました。

今年のトピックス & 優れた研究成果

教員の交代と新たな風

今年3月、40年間にわたり教育研究に貢献された宮田浩文教授が定年退職されました。「農学部の特色を活かした運動生理学の展開」と題した最終講義には多くの方が集まりました。また、4月には農業経済学分野の准教授として林瑞穂先生を迎えました。林先生は在ウルグアイ日本国大使館での一等書記官を務められた経歴をお持ちです。これまでの豊富な経験を活かし、農学部の教育に国際的な視点をもたらしてくれると期待しています。

世界で最も影響力のある科学者トップ2%に3名が選出！

スタンフォード大学とエルゼビア社が公表した2025年版リストに、生物機能科学科の3名の先生が選ばれました。

今村 博臣 教授 / 肥塚 崇男 教授 / 松井 健二 教授

これは、論文の引用数などにより、研究分野ごとに選定されるもので、山口大学全体では13名の教員が選ばれています。

農学部では、このように高い研究力を基にした教育を展開しています。

充実した学生生活と進路実現に向けて

山口大学農学部では、これからも学生の皆さんが充実したキャンパスライフを送り、納得のいく進路選択ができるよう、教職員一同、一丸となって学生支援に努めて参ります。



生物資源環境科学科

生物資源環境科学科では、これからも人類が持続的に楽しく豊かに生活できる環境を作り出すために、植物や動物を利用した生産経済活動に関する学術分野を中心に、それらを取り巻く環境に関する学術分野も学び、農業と環境、経済活動、地域社会の相互関係が理解できる教育カリキュラムを提供しています。

カリキュラム全体としては、専門性が高い授業が受けられることはもちろん、学生の主体的学びを推進するために積極的にアクティブ・ラーニングを導入しています。一部の授業においては、学外の専門家による講義と現場の見学を取り入れ、実社会での課題を認識できるようにしています。



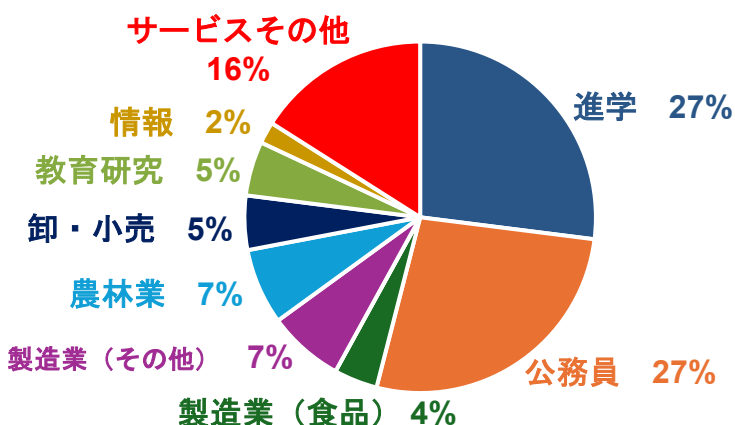
求める学生像

- [1] 理科や数学、社会などの知識を役立てて、食料生産や環境保全等の社会問題の解決に尽力したい人
- [2] アグリビジネスにおける革新的技術に関心があり、研究したい人
- [3] コミュニケーション能力や国際感覚を磨き、地域社会の課題解決や地球規模の問題に取り組みたい人



進路状況

令和8年3月卒業生の進路状況



取得できる主な資格



教育職員免許状

高等学校教諭一種免許状（農業）



普及指導員

普及指導員になるためには、地方公務員に採用された後、農業等の試験研究、教育又は普及指導に一定期間従事したうえで、「普及指導員資格試験」を受験し、合格することが必要です。

教員研究紹介



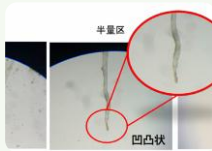
環境土壌学
藤間 充 准教授

「土壌環境を制御することで植生を制御する」

研究キーワード: 酸性土壌 / 生物多様性 / 在来・外来生物

近年は過疎化や高齢化の影響もあり耕作放棄地が増加しています。耕作放棄地では、改良された土壌のため外来種の植物が蔓延する問題が生じています。

酸性化資材を施用し外来植物の蔓延しにくい土壌環境を作り、在来植物が優先する植生を回復させる方法を開発し、現在はその効果の検証を行っています。



🔦 研究の面白さ

元々は作物生産に適する土壌への改良を研究していましたが、今では土壌を酸性にする方法を研究しています。予想していない展開があるのが研究の魅力です。



昆虫学
竹松 葉子 教授

「熱帯雨林に行きたくて研究始めました」

研究キーワード: 熱帯雨林 / 分解者 / 森林保全 / シロアリ

東南アジアの熱帯雨林におけるシロアリの多様性調査を進めています。近年は規制強化に伴い、現地の人が自立して調査・解析を行える体制づくりを進めています。

現地へ赴いて調査方法の指導や分類方法、種の見分け方を教育することが現在の活動の中心となっています。



🌟 研究の一番の魅力

一番の魅力は小学生の時から夢だったジャングルに行けたことです。現地で調査を行いながら新しい発見を積み重ねられることが、この研究の大きな魅力です。



農業経済学
林 瑞穂 准教授

「日本の食料安全保障の確保の役に立つ研究」

研究キーワード: ブラジル / バリューチェーン / 食料安全保障

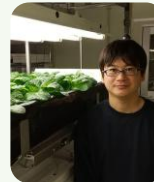
日本の食料安全保障の確在り方を検討するために、家畜が食べる配合飼料原料となるダイズやトウモロコシのバリューチェーンについて研究しています。

特に、日本のダイズ・トウモロコシの主要調達地域であるブラジルに着目し、現地における生産者や穀物集荷業者などの主体による経営活動および相互関係の解明を目的としています。



🌟 研究のやりがい

農林水産省などから意見を求められることがあり、そういった政策立案の現場で自分の研究が役に立てたときに非常にやりがいを感じます。



施設園芸学
佐合 悠貴 准教授

「植物の声をデータで聴き、栽培を革新する」

研究キーワード: 施設園芸 / 植物工場 / 環境制御 / 植物生体計測 / 養液栽培 / スマート農業 / 資源循環

温室や植物工場野菜を安定して生産するために、温度、湿度、光、二酸化炭素、養分などの環境をどのように調節すればよいかを研究しています。

生長や品質に加えて、光合成や養分吸収などの植物の反応も測定し、環境との関係を調べることで、高品質な野菜を効率よく育て、養分や資源の無駄を減らす先進的な栽培方法の開発を目指しています。



🌟 研究の魅力

植物が何を求めているのかをデータから読み解き、植物と会話できたように感じる瞬間が、この研究の最大の魅力です。たとえば、光や温度を変えると、それに応じて植物は生長や養分の吸収を変化させて答えてくれます。

卒業研究紹介



農学部 生物資源環境科学科 4年
柳研究室

明石 茉莉 さん

研究内容

秋吉台の土壌形成に関する研究を行っています。かつては「秋吉台の土壌は石灰岩残渣由来である」という説が一般的でしたが、近年その説が否定されつつあり、新たに「中国大陆から飛来した風成塵が土壌形成に大きく関わった」という仮説が注目されています。この風成塵起源説の妥当性を検証する研究に取り組んでいます。

一日のスケジュール

- 8:00 起床、朝食
- 10:00～16:00 実験・ゼミ準備
- 16:00～19:00 趣味の時間
- 19:00～21:00 お風呂・夕食
- 21:00～23:00 TOEIC・資格勉強、院進学の勉強
- 24:00 就寝



後輩へのメッセージ

大学では専門的な内容を学ぶ機会が増え、最初は戸惑うこともあるかと思います。でも周りには相談できる先生や友達がいるので、焦らず自分のペースで頑張ってください。大学では勉強だけでなく、新しい出会いや経験もたくさんあります。ぜひ大学生活を楽しんでください！



創成科学研究科
博士前期課程 2年
執行研究室

廣瀬 昂紀 さん

研究内容

私はネギの葉の色に関する遺伝子解析を行っています。現在は、ネギの「ゲノムデータ」、実際にネギで働いている「遺伝子の発現量データ」、そして成分の含有量を示す「代謝物データ」という、性質の異なる3つの膨大なデータを掛け合わせる解析アプローチをとっています。

単一のデータだけでは見えてこない遺伝子から成分合成へのプロセスを、統計学的手法やシステム生物学的なネットワーク解析を用いることで、葉の色を制御する中心的な遺伝子座の同定を進めています。このデータ解析システムが完成すれば、ネギのあらゆる特徴を解き明かす鍵になります。「なぜこのネギは美味しいのか?」「どうして病気に強いのか?」といった様々な謎を解き明かす未来を目指して、日々研究に励んでいます。

一日のスケジュール

- 9:00頃 研究室到着
- 午前 暗記系の英語や専門の勉強
- お昼 遺伝子解析のプログラミング構築、後輩指導や留学生の面倒を見る
- 夕方 帰宅



後輩へのアドバイス

自由な時間がたくさんある大学生のうちに、興味があることや、やってみたいことがあったらとりあえずやってみてください。好きなことをとことん突き詰めて、上手くいってもいかなくとも人生経験的に面白くなるので、いろいろなことに挑戦してみてください。



生物機能科学科

生物機能科学科では、化学と生物学の基礎的知識、生命科学と環境科学に関する専門的知識、バイオテクノロジー等の技法を活用し、生物科学分野で社会貢献できる人材の育成を目指します。

また、バイオテクノロジーの原理を理解するためには化学の知識が不可欠ですが、化学に対する苦手意識からバイオ分野への進学を諦めるケースが増えています。そこで本学科では、生化学と有機化学に関する教育も十分に行い、バイオテクノロジーを通じて社会の発展に寄与できる人材を育成します。

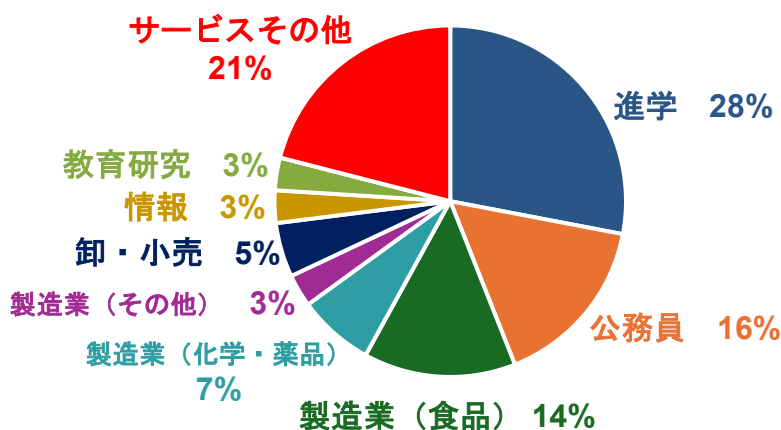
🎯 求める学生像

- [1] 生命現象の複雑なメカニズムを、細胞、タンパク質、遺伝子のレベルで探究したい人
- [2] 人と環境とのかかわりの中で生じる諸問題を化学と生物学の視点から解決したい人
- [3] 自然や社会における問題を自ら探し出し、それを解決しようとする姿勢を持つ人



進路

令和8年3月卒業生の進路状況



取得できる資格

✦ 食品衛生管理者

✦ 食品衛生監視員

国家公務員と地方公務員の2つがあります。国家公務員は「食品衛生監視員」採用試験を、地方公務員は「地方公務員採用試験」を受験し合格することが必要です。

✦ 毒物劇物取扱者

✦ 普及指導員

普及指導員になるためには、地方公務員に採用された後、農業等の試験研究、教育又は普及指導に一定期間従事したうえで、「普及指導員資格試験」を受験し、合格することが必要です。



分子微生物学
阿座上 弘行 教授

「微生物の付着・定着するしくみの解明」

研究キーワード: バイオフィーム/付着/定着/コミュニケーション
阿座上先生の研究室では、歯周病菌のように口腔内へ付着・定着してバイオフィームを形成する病原微生物を対象に、唾液や咀嚼、免疫反応、酵素といった防御機構をどのように乗り越えて付着・定着するのかを解明するとともに、お茶のカテキンやキノコ類などバイオフィーム形成を抑制する食品成分の影響についても研究しています。

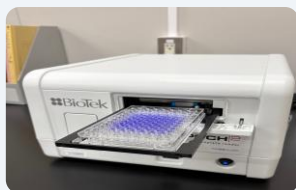
また、微生物がバイオフィーム形成の際に行う「微生物間コミュニケーション（クオラムセンシング）」の仕組みを明らかにし、そこに介入することで形成を制御する方法を探す研究も進めています。

✦ 研究の魅力

自ら立てた仮説が実験によって裏付けられ、新しい発見につながった瞬間にこそ研究の醍醐味があります。



マイクロプレートに染色液を加える様子



プレートリーダーで吸光度測定を行っている様子



植物代謝生化学
肥塚 崇男 教授

「植物が語る香りの言葉を読み解く研究」

研究キーワード: 香気成分/代謝工学/生合成酵素

肥塚先生の研究室では植物の香りはどのようにして作り出されるのか、そのしくみについて研究しています。特に、花の香りがどのような遺伝子や酵素のはたらきによって生み出され、大気中へ放散されるのかを調べています。また、植物が本来持つ潜在的な代謝力を活用し、香料原料となる香り成分を効率的に生産する技術の開発にも取り組んでいます。

植物は言葉を話しませんが、香りを通じて昆虫や周囲の環境とコミュニケーションを取っています。肥塚先生はこの香りのメッセージがどのように作られ、どんな意味を持つのかを分子レベルで読み解き、新たな「バイオ香料」の生産や植物機能の活用につなげていきたいと考えています。

✦ 研究の魅力

植物の香りの仕組みには多くの謎があり、「なぜその香りを出すのか」「なぜ夜だけ香るのか」という自然界の不思議を解き明かすことに大きな魅力があります。



写真) ペチュニア

夕方から夜に甘く香るペチュニアは、遺伝子操作が容易な重要モデル植物です。



環境微生物学
湯山 育子 准教授

「シャーレの中でサンゴ礁を再現する」

研究キーワード: 実験的サンゴ礁/細胞内共生/白化現象

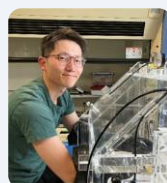
湯山先生の研究室では、サンゴと藻類（褐虫藻）の共生やサンゴが真っ白になって死んでしまう「白化現象」の仕組みを研究しています。サンゴは飼育が非常に難しく未解明な謎が多く残されていますが、湯山先生はサンゴの赤ちゃん（幼生）をシャーレの中で人工的に育てる高い技術を持っています。独自の実験系を用いて、サンゴが藻類から何を受け取り、どのように成長していくのかという共生の仕組みや白化のプロセス、高温耐性のメカニズムなどを解明しようとしています。



左) サンゴの赤ちゃん「プラヌラ幼生」
右) サンゴ礁の骨格標本とレプリカ
白いものは、生きた組織が剥がれて骨格だけになった状態。茶色いものは、生きたサンゴの状態を模倣したレプリカ。生きたサンゴは体内に茶色い藻類が住んでいるので茶色く見える。

✦ 研究の魅力

サンゴの研究は細胞内共生という普遍的な生物の謎に迫る楽しさがあるだけでなく、地学や環境保全など幅広い分野へと繋がる、大きな魅力を持っています。

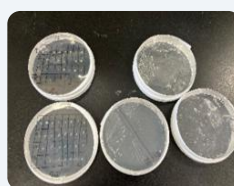


ゲノム微生物学
佐藤 悠 助教

「極限環境微生物の新たな可能性の探索」

研究キーワード: 温度/耐熱性/極限環境

佐藤先生の研究室では、温泉や鉱泉などの極限環境に生息する新たな微生物の探索を行っています。また、高温などの環境に微生物がどのように適応するのか、その仕組みの解明にも取り組んでいます。微生物の生育温度を自在に制御できれば、地球温暖化をはじめとする環境変化への対応や、産業分野での応用も期待されます。



左) コロニー/右) 液体培地で微生物が増殖する様子
極限環境に生息する微生物の多様な生態と、その無限の可能性を探求しています。

✦ 研究の魅力

「予想通りにいかない結果から、思いがけない発見が生まれること」です。また、その予想外の発見に至るまでの試行錯誤や思考のプロセスこそが、研究の醍醐味だと思います。

卒業研究のご紹介



農学部 生物機能科学科 4年
高坂研究室
小幡 准平 さん

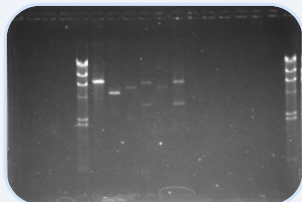
私は現在、大腸菌内の異種ヒドロゲナーゼ発現についての研究をしています。研究では、目的のヒドロゲナーゼ遺伝子を持つ生物のゲノムDNAからヒドロゲナーゼ遺伝子に関与する部分を取り出し、プラスミドに組み込むことで大腸菌に導入しようとしています。研究をしていく上で理想とする結果を生み出すためにどうしたら良いのかを考えるのには苦労しますが、理想的な結果を得られたときにはやりがいを感じます。



電気泳動の様子



[左上] 形質転換により赤く蛍光するiVEC(大腸菌)
[右上] 蛍光する遺伝子とは別の遺伝子を導入したiVEC(大腸菌)



電気泳動の結果

年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	学生実験	学生実験	セミナー(実験発表) 院試験(一回目)	お盆休み オープンスクール			後輩研究室配属 学生実験		院試験(二回目)	卒業論文締め切り	卒業発表会

後輩に一言

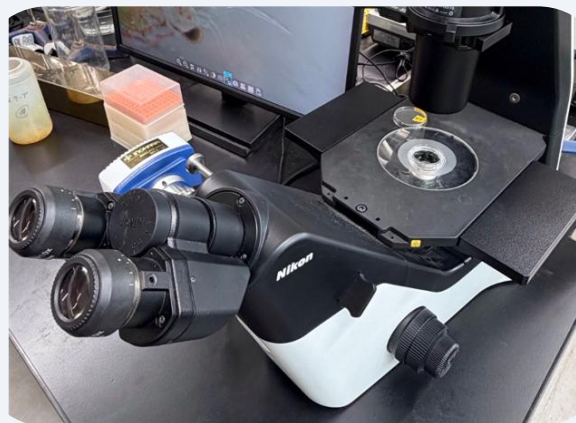
研究室配属後、研究室にもよりますが1、2、3年生の時よりも確実に毎日が忙しくなると思うので自分のやりたい研究ができるように日々の講義をしっかり頑張って楽しく過ごしてください。



創成科学研究科
博士前期課程 1年
井内研究室
木下 晴登 さん

私はサクラケムシの糞が持つ抗炎症作用について研究を行っています。指導教員と相談しながらテーマを決め、先輩から引き継いだ内容をもとに進めています。

昆虫を対象とした研究は先行研究が少なく条件設定を手探りでやってきましたが、未知の領域を自ら切り開いていく楽しさがあります。



年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究発表決め		応用実験打ち上げ			サクラケムシの捕獲		昆虫食試食会開催	大掃除		卒業論文集団発表	

多彩な研究とやりがい

他にもオオシロアリの免疫活性やエビを巨大化させる研究等にも取り組んでいます。分かっていたいなかった仕組みが見えてきた時に、研究の面白さややりがいを強く実感しています。

学生アンケート



学生に聞いてみた山口大学の良さについて紹介していきます。

Q 山口大学農学部の魅力とは

A, 農業系のイメージが強いと思うけど香りや食品、動物の神経といった様々な分野について実験を通して学び、研究しているため内容の幅がとっても広い！

— 生物機能科学科2年

Q 山口大学の学祭について

A, 山口大学には七夕祭と姫山祭という2つの学祭があります。各サークルや部活の人達で屋台を出店しておりとてもにぎわいます！芸人さんをお呼びして漫才を見ることがやビンゴ大会では豪華景品があるため盛り上がることも間違いなし！

— 生物機能科学科3年

Q バイトのおすすめは？

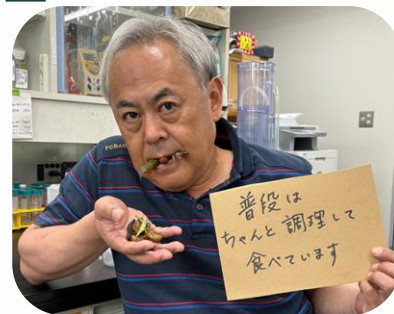
A, 湯田の近くでは居酒屋や飲食店が多いのでお勧めです。接客の技術も身に着けることができます。夜遅くなりすぎないように家に近いところがいいです。

— 生物資源環境科学科2年

Q 面白い先生 No.1

★ 圧倒的ナンバー1 ★

食品機能化学
井内先生



昆虫食の健康機能性研究の一環で、
昆虫を口いっぱい頬張っている井内先生

学生からも大人気のユニークな講義！

Q 農学部を目指す高校生に言いたいこと

A, 最初は化学系の講義が多かったため苦手な私は不安でしたが丁寧に基礎から教えてもらえて安心して学ぶことができました。農学部は食料から環境、生物など生活に身近な分野について学ぶことができます。また、講義の取り方次第で資格取得も可能なので興味や将来に合わせて学びを深めることができる所も農学部の魅力です。

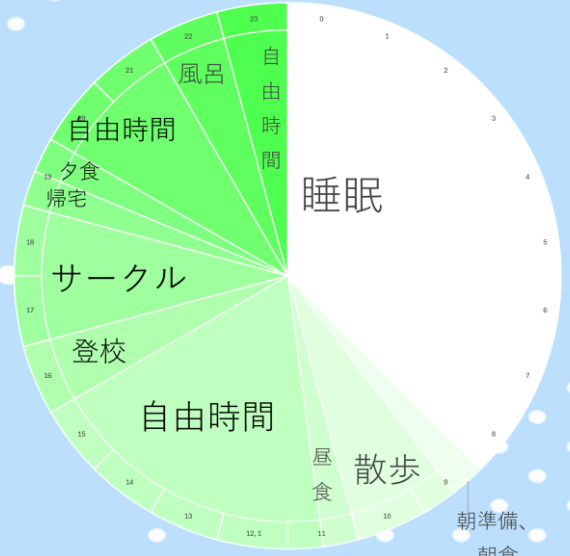
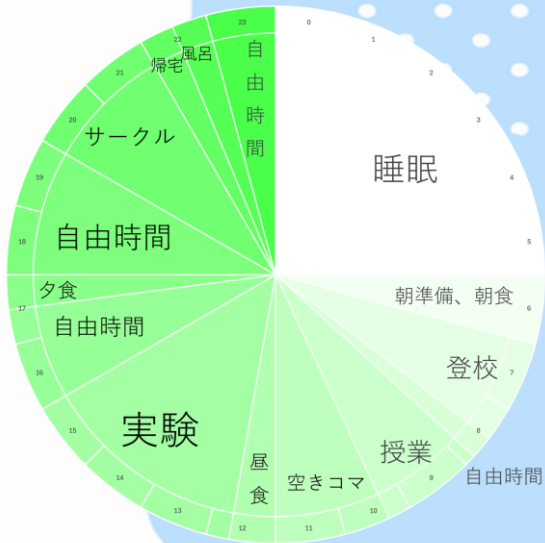
— 生物機能科学科1年

とある大学生の一日

平日

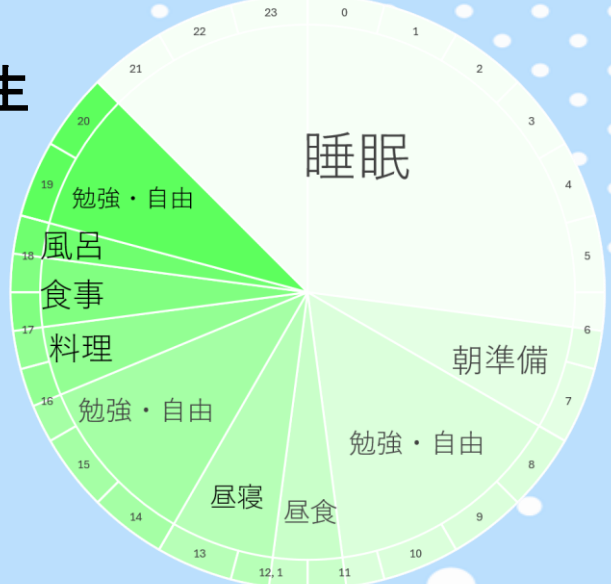
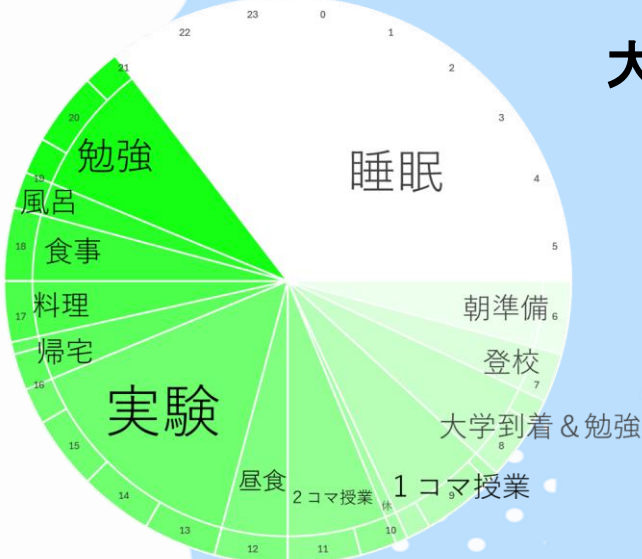
休日

大学1年生



空きコマや自由時間では課題や勉強をしたり、友達とおしゃべりしたりして過ごしてます！平日の睡眠時間が短いので、休日にたくさん寝てます！

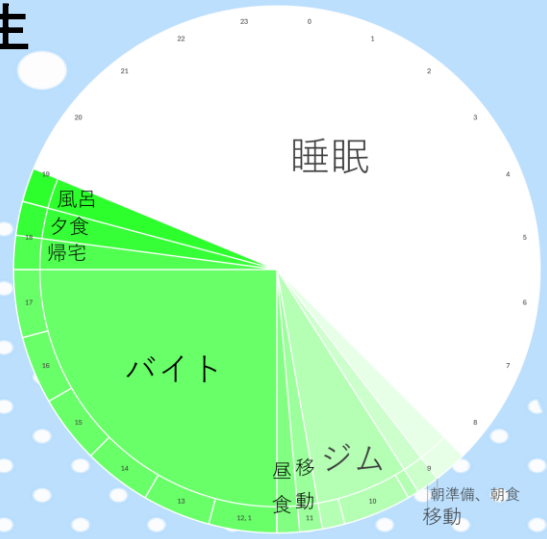
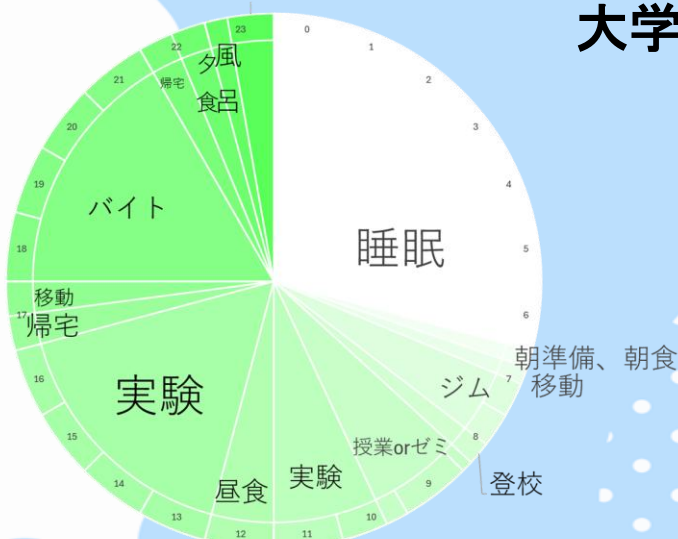
大学3年生



農学部の平日は朝1からの授業が多いです。実験もありますが仕組みややり方を理解すると楽しいです。休日はレポートの作成やお出かけに行ったりします。サークルが時々休日にあるので退屈で暇な休日はありません！

家事、自由時間

大学院1年生



平日には学校でできることと、それ以外でできることをしっかりと分けるように意識しています。(実験の待ち時間に課題、研究に関することを行って、学校以外ではジムやバイト、家事に時間をかける。) 休日は平日に時間がない分、しっかりとリラックスできるようやりたいことをやるようにしています！

農学部と関係のある施設の紹介

中高温微生物研究センター



研究を活性化させる全学共同施設

中温より高い微生物を研究する先生たちが研究を盛り上げていくために作られた施設。2009年9月に山口大学農学部の附属施設として設立され、2014年から全学のセンターに移行しました。

中高温という温度範囲と、様々な学部教員が所属しているのが特徴。"基盤"、"環境"、"病原"、"発酵"の4分野が融合し、極めて多様性の高い研究が行われています。

施設の特徴・設備

- 微生物の保存と大型培養マシンを多数完備
- 外部依頼による微生物の一時保存・提供サービス
- 授業でも使用される充実したセミナー室
- 大量培養や2種類同時培養（自然発生・連続）が可能



システム生物学・RI分析施設



厳格に管理された共同利用研究施設

実験で使う放射線が管理されている施設です。1990年代に設立されました。宇部市にある小串キャンパスにも、同様の役割を持つ姉妹施設が存在します。

設備の変遷と現在の役割

かつては放射性同位元素の実験が主流でしたが、利用者の減少に伴い施設を縮小。その空きスペースを有効活用し、最先端の分析機器を相次いで導入しています。

導入機器の例：

- ・LC-MS (液体クロマトグラフィー質量分析計)

[写真①]

- ・GC-MS (ガスクロマトグラフィー質量分析計)

[写真②]

これらにより生体内の低分子量成分の精密分析が可能に。その他、顕微鏡 [写真③]や遠心機 [写真④]も設置。

大学全体が共通で利用可能な中核的研究施設です。



先生のプライベートに迫る！

研究だけじゃない、先生の意外な一面も!?



こうさかともゆき

高坂智之先生

研究内容：大腸菌による共生微生物の機能に関する研究

1. 趣味

- ・ **クラシック・オーケストラ鑑賞**：昔も今も変わらない普遍的な魅力が好き。交響曲を聴く時は、まず「作曲者から選ぶか、指揮者から選ぶか」を決めるこだわり派。
- ・ **J-POPは歌詞重視**：藤井風、Official髭男dism、米津玄師がお気に入り。メロディより「歌詞」をじっくり味わい、世界観を大事にするのが先生流。
- ・ **スポーツ観戦**：チームではなく「個人推し」。野球やロードバイクで応援している選手の活躍度によって応援熱がグッと上下するチャーミングな一面も。

2. 風景を切り取る旅

- ・ **山口の四季を巡る**：休日はカメラを片手に、萩、下関、宇部、防府へ。その季節にしか出会えない美しい一瞬を写真に収めています。

3. 大学時代での経験

- ・ **自分と違う役割の仲間、そして達成感**

大学の部活で、みんなをまとめるような「自分とは違う役割」の友達と出会えたことが大きな財産です。自ら課題に立ち向かったり、仲間と協力して部活で優勝を果たしたときの強い達成感、今でも鮮烈に記憶に残っています。



ゆやまいくこ

湯山育子先生

研究内容：サンゴとその共生褐虫藻の細胞内共生の関係、二ホンアワサンゴの大量死の原因究明

1. 趣味

- ・ **株価の変動を見ること**
- ・ **世界中のおいしいものを食べること**：世界で一番おいしい料理は選べない。おいしいものを食べると自分でも作ってみたいくなる。

2. 休日の過ごし方

- ・ **3歳の息子と遊ぶ**：外でダンゴムシを見つけて遊んでいる。お子さん達は食事がすごく多いのだとか。

3. 高校時代での経験

- ・ **硬式テニスに打ち込む**：高校生はとにかく部活を頑張っていた。実はテニス部のエースだった!?

4. 大学時代での思い出

- ・ **一人暮らし**：友達と一緒にご飯を食べたり、お家でお泊りしたりして、プライベートの話で盛り上がっていた。
- ・ **野外実習**：山に行き得意なスケッチをすることが楽しかった。
- ・ **研究室**：新しい発見につながる研究や先輩・先生と親しくなる研究生活は濃密で楽しかった。

農学部キャラクター候補”きじ太”誕生秘話



水彩画



きじ太

Q. このキャラクターを作ったきっかけは何ですか？

A. 2026年3月をもって農学部教員を退職する記念に「あなたが思う農学部のイメージ」をテーマとしたオリジナルデザイン公募に応募してみようと思ったことがきっかけです。自分で描いた水彩画をイラスト化し、「きじ太」と名付けました。

Q. キャラクターとしてキジを選んだ理由は何ですか？

A. 以前、附属農場周辺でジョギングをしていた際に、キジと不思議な出会いをしたことがきっかけです。特に背中や胸の羽の美しさが強く印象に残っており、その思い出をもとにキャラクター化しました。

Q. デザインでこだわった点はどこですか？

A. 胸から背中にかけての色合いや雰囲気表現にはこだわり、時間をかけて丁寧に仕上げました。一方で、顔や脚の細かな部分は記憶だけを頼りに再現することが難しく、苦労した点でもあります。

「きじ太」を製作した 宮田浩文先生のご紹介



宮田 浩文 先生

元 山口大学農学部教員

[現職: 放送大学・山口学習センター]

Q. 研究分野は何ですか？

A. 動物細胞生理学、運動生理学です！

Q. 好きな筋トレメニューを教えてください！

A. 寝る前に布団に転がってやる腹筋と背筋が好きです。

Q. 趣味を教えてください！

A. 年に1回のフルマラソンに向けた日々のランニングです。

農学部広報部紹介

山口大学農学部広報部では、農学部のいいところを社会や高校生のみなさんに発信するために、日々元気に取り組んでいます！



🌱 主な活動内容

広報誌制作 農学部広報誌「NOAH」の作製 / リーフレットの作製 / 広報部だよりの作製

情報発信 オープンキャンパスの案内・運営サポート / Instagramによる魅力発信



広報部長挨拶

生物機能科学科 3年 大石

農学部広報部では、農学部の魅力や学生生活の様子をたくさんの人に届けるために活動しています。

「農学部ってどんなところ？」「どんな学生が学んでいるの？」そんな疑問に答えられるよう、私たちは学生目線で情報を発信しています。

文章を書くのが好きな人はもちろん、写真撮影やデザイン、SNS運営に興味がある人も大歓迎です。一緒に“農学の面白さ”を届けていきましょう！



広報副部長挨拶

生物機能科学科 3年 野津

学生目線で情報を届けることで、高校生のみなさんが「大学ではどのような生活を送るのだろうか？」と入学後の姿を具体的にイメージするきっかけになればと思っています。

活動を通して先生方や学年を超えたつながりが生まれることも大きな魅力です。自分たちが制作した記事やパンフレットが形として残るため、大きなやりがいを感じることができます！



▲ 新歓バーベキューを行った時の様子

私たちと一緒に活動してみませんか？

✨ 企画や情報発信に興味のある方歓迎 ✨

他学年や先生との交流も深く、楽しく活動しています。

あなたのアイデアを形にしてみましょう！

🌱 農学部広報部 担当教員紹介



山口大学農学部 生物機能科学科
前野 慎太郎 助教

✨ 農学部のいいところを聞いてみました！

■ 初めての広報誌「NOAH」制作を終えて

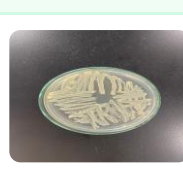
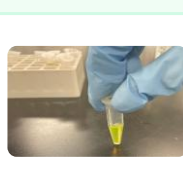
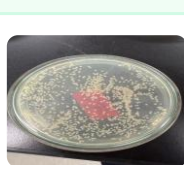
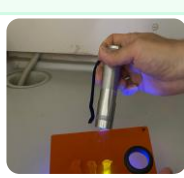
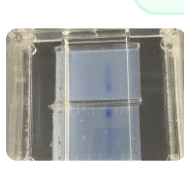
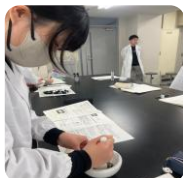
今回、広報部として初めて「NOAH」の制作に携わり、誌面づくりには多くの工夫や準備が必要であることを実感しました。学生たちは記事の構成や内容について主体的に意見を出し合い、その過程で「相手に伝わる文章を書くこと」の難しさと面白さを学んでいました。また、普段の大学生活も高校生や保護者にとっては貴重な情報であることを意識し、読み手の立場に立って情報を発信する力が育っていると感じています。

■ SNSを通じた学びと発信力

広報部ではInstagramの運営も行っており、投稿時には情報の正確さに加え、個人情報や肖像権への配慮について学生と確認しながら発信しています。現在は農学部を紹介する広報動画の制作も学生主体で進められており、動画編集やSNSを活用した情報発信を実践的に学ぶ貴重な機会となっています。こうした経験は、デジタルスキルや発信力を高め、就職活動にも生かせる力につながると感じています。

■ 社会人基礎力と農学部の魅力

広報部ではInstagramの運営も行っており、投稿時には情報の正確さに加え、個人情報や肖像権への配慮について学生と確認しながら発信しています。現在は農学部を紹介する広報動画の制作も学生主体で進められており、動画編集やSNSを活用した情報発信を実践的に学ぶ貴重な機会となっています。こうした経験は、デジタルスキルや発信力を高め、就職活動にも生かせる力につながると感じています。





お問合せ：〒 753-8515
山口市吉田 1677-1 山口大学農学部学務係
TEL：083-933-5811
FAX：083-933-5812
E-mail：aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp

この広報誌は農学部教育後援会の支援により作成しています。

